

株式会社ビーエスFOX
第16回放送番組審議委員会議事録

1. 開催日 : 令和元年11月19日(火)13:00～15:00
2. 開催場所 : 東京都品川区北品川 5-5-15 大崎ブライトコア 16F
3. 委員の出席 : 委員総数 7名 / 出席委員数 6名

審議委員(敬称略): 菊地 実、鳥居 美砂、浅井 正義、阿部 清美、
田保橋 淳、本田 雅一

放送事業者側出席者氏名 :	代表取締役社長	小林 信一
	アフィリエイトセールス本部長	杉田 真太郎
	マーケティング部 部長	岸本 裕子
	編成部 部長	伊藤 由起
	編成部	鈴木 香都喜
	編成部	後藤 圭介
	事務局	岩崎 壮一
	事務局	橋本 佳奈(記)

4. 議題:

- (1) 株式会社ビーエスFOX概況報告
- (2) FOXスポーツ&エンターテイメントより『Bリーグ選手談義 宇都宮×千葉』についての番組審議
- (3) ナショナル ジオグラフィックより『ホット・ゾーン』についての番組審議※

5. 審議内容:

- (1) 株式会社ビーエスFOX概況報告

代表取締役社長の小林より、ディズニーとFOXの経営統合、日本における新体制、事業戦略の見直しについてご説明。選択と集中の結果、FOXスポーツ&エンターテイメントについては2020年3月31日を以って業務廃止することを決定、総務省に廃止届を提出し、報道発表を行ったことをご報告。

(2) FOXスポーツ&エンターテインメントより『Bリーグ選手談義 宇都宮×千葉』についての番組審議

<委員からの意見>

・今回の番組はトーク進行を選手側に任せているため、ゆるい雰囲気になっていた。プロのMCを入れてしまうと仲間内の本音の話は引き出しにくいかもしれないが、放送番組としては番組進行とのバランスをもっと考えた方が良いのではないかな。

・オリジナル番組をBSCSの放送局が企画・制作すること自体をまずは評価したい。

・バスケットは野球・サッカーに次ぐプロスポーツになることを期待されており、本番組もプロバスケットを盛り上げることが狙いだったのは理解できるが、15分番組としては企画内容が欲張りすぎだった感がある。15分で2チーム計8人の特色・魅力を伝えるのは至難の業。ただ、出演が大勢の方が突飛な発言を引き出せる可能性もある。

・東京オリンピックに向けても盛り上がるテーマ。選手の仲の良さは伝わってくるので、もっと人間関係などを深ぼりできれば良かった。場面展開が急で忙しい番組進行だった。

・15分という短い尺だが、貴重な発言が多く聞けた。面白いテーマ、感心した。

・セットに置いてあるお茶菓子が気になった。ロッカールームを演出するとか、チームのグッズを置くとか、もう少し絵面を考えた方が良いのではないかな。

・番組冒頭のアナウンスにメッセージが凝縮されていてとても良かった。それだけに、本編はBリーグを知らない視聴者からすると選手のことよく分からないまま進行してしまい、物足りなかった。

・選手だけの談義なのが逆に良い。飽きない構成。選手が場慣れしていない点も新鮮だった。

・Bリーグに詳しくない視聴者にも分かりやすいように、選手名のテロップは丁寧に入れてほしい。

<事業者回答>

・プロ野球のオリジナル番組企画との違い、難しさをご説明。今回は場慣れしていない選手も話しやすいよう、カジュアルな雰囲気づくりに努めた。

・残りの放送期間、Bリーグを盛り上げるために、各チームともコミュニケーションを取って、できることをやっていきたい。

(3) ナショナル ジオグラフィックより『ホット・ゾーン』についての番組審議

<委員からの意見>

・啓蒙には良い番組ではあるが、感染症という目に見えないものがテーマということもあり、1 話を見た限りでは恐さが伝わりにくい。

・よくある感染症ものではあるが、FOX やナショジオが制作に関わっているだけに、単に恐怖を煽るフィクションとは違って、真面目なつくりだと思った。部分的には科学的な説明がくどいと感じた。

・ドラマなのかドキュメンタリーなのか、どっちつかずの印象。ナショジオ制作でありながら、時折入ってくる安易なエンタメ要素が気になってしまうので、FOX がエンターテインメント作品として制作した方が良かったかもしれない。ドラマであればもっとはらはらドキドキさせて欲しかったし、ドキュメンタリーを追究するなら科学者の描き方等をより追求してほしかった。

・原作の出版から時間が経ってはいるが、2020 年に向けてボーダーセキュリティへの意識が高まっていることもあり、今の日本で放送する意義はあると思う。

・「マーズ:火星移住計画」のようなドラマとドキュメンタリーが交互に展開される構成を予想していたら違った。ナショジオでフィクションを放送する意義についてはよく考える必要があると思う。

・恐さを直接的に説明するのではなく、「シン・ゴジラ」のように、こういうことが起こった時に、なかなか組織が動かない、意思決定が行われないという点をフックにして、その背後にある恐さを表現するようなアプローチがあっても良かったと思う。

・フィクションだということを忘れるくらいのリアリティがあり恐かった。テレビで放送する際には、表現についての注意喚起テロップを入れる等、視聴者への配慮が必要と考える。

・規制の多い地上波では放送できないような内容の番組を放送することに意義がある。感染症への注意喚起、ボーダープロテクションの重要性を考える上でも良い番組。

・専門的な知識がない視聴者からしても分かりやすい内容だった。

<事業者回答>

・頂いた貴重なご意見の数々を今後の編成に活かしていきたい。

・本番組と同時に、本作の主人公に焦点をあてたドキュメンタリーも制作しており、こちらは王道のナショジオらしいドキュメンタリーであることをご説明。

以上